



沢田内科医院

ニュースレター Vol.11

医療事故

医療事故関連のニュースは新聞に載らない日がないのではないかとと思われるほど多くなりました。企業会計の不正、食品会社の不正、電力会社の検査隠し、政治家の汚職、医療に限らず、人々の信頼関係を損なう事件の報道は数え切れません。最近の特徴として、不正が疑われた時にそれを隠そうとして、調べが進むうちにだんだん傷口が大きくなることです。自分に不利なことを隠したいと思うのは、自然なことだと私は思います。自分の失敗をわざわざ他人の目にさらしたい人がいれば、私はむしろその精神状態を疑います。しかし、組織的な不正を個人の責任にしようしたり、明らかに大きな不正があることが分かっているが隠そうとし、後で弁明

するのは間違いでしょう。人をだまそうとすると、信頼関係が崩れてしまうからです。

人の命に関わる医療の世界では、間違いは決して『あってはならない』ことです。理想としては、そうであっても、現実には間違いは起こるのです。毎日100人ほどの人たちに、薬の処方を書く私は、日に少なくとも1回は職員から間違いを指摘されます。私たちの医院では、薬を渡す前には必ず二人の人がチェックしているように、全てのことに對して、少なくとも二人の人が関わるようにし、間違いを未然に防ぐようにしています。それでも、間違いが起こるのです。

できるだけ間違いが少なくなるように、どんな小さなことでも職員みんなで共有し、大きな事故が起こらないように努力しています。間違いがあった時には、信頼関係が崩れてしまうことがないように、誠意を持って対処したいと思っています

癌検診の勧め

地域や職場で健康診断を受ける機会が非常に多くなってきました。肝炎ウイルスの検査も加わり、健康診断の項目も、だんだん複雑になってきています。ただ、健康診断を受けても、受けただけの方も少なくありません。私は、健康診断を受ける場合には、癌に関係する検査を優先的に受けることを勧めています。

特に、バリウムによる胃癌の検診、大腸癌を見つけるための便潜血反応、子宮頸癌検診、X線を併用した乳癌検診などは年に1回は必ず受けることを勧めます。検診を受けるということは、見つかった場合に、手術などで治療すると助かるということが前提です。

「年1回」というのは、見つかった場合に治療すれば助かるからというのが理由です。胃癌の検診を例にとると、2年や3年の間隔で検査を受けた場合に、すでに進行癌となって転移があり、治療しても助からない場合があるということです。胃の検査を年に1回受けていると、ほとんどの胃癌は「早期癌」の段階で見つかります。早期胃癌は手術をすればほとんど助かります。他の癌についても、年に1回検査を受けていると、手術をして助かる段階で見つけることができます。もちろん、それよりも間隔が長くても早期に見つかりますが、進行して見つかることがあるとい

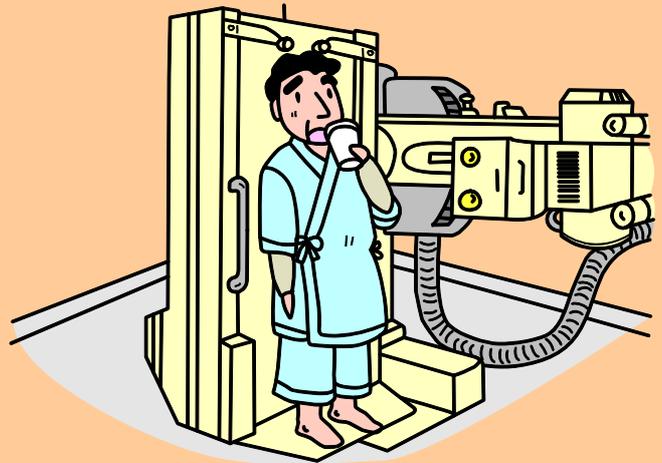
うことです。癌検診の賞味期限は1年です！！

現在の日本の制度では、健康保険を使った診療では、予防的な検診を行うことができません。しかし、何か症状がある人、癌があるか心配でしょうがない人などは、癌を疑って検査をすることができます。また、弘前市から委託された胃癌と大腸癌の検診は私たちの医院でも行っています。癌が心配な人はご相談下さい。子宮癌や乳癌などについても、専門的な診療ができる病院を紹介しますのでご相談下さい。

胃の検査は内視鏡とバリウムのどちらがいいか？

世の中では、声が大きい人の主張が正しいように聞こえることがよくあります。『胃の内視鏡検査や大腸の検査は苦しい』というのも、そのひとつです(苦しくないとは言いませんが……)。

胃の検査をする場合には、私は原則として内視鏡検査を勧めています。バリウムでも胃癌は診断できますが、私は内視鏡検査の方が小さな癌を見つけやすいと考えています。内視鏡自体も直径が6mmと非常に細いものがあり、苦痛が少なくなっています。また、癌を疑った場合には、内視鏡検査であれば胃の一部を検査のために取ってきて、直ちに精密検査をすることができます。私たちの医院では、胃内視鏡検査件数は1年間に800~900です。



これに対して、バリウム検査件数は30前後です。

内視鏡検査は苦しいと言われていています。確かに、検査中ずっとゲーゲーと吐いて苦しい人もいます。しかし、大部分の人は、それほど苦痛なく終わっています。精密検査以外であれば、3分もかかりません。苦しい体験をした人の話はすぐ広がり、苦痛もなくスムーズに終わった人は何も言いませんから、結果的に胃内視鏡検査は苦しいものと相場が決まっています。でも、だまされたと思って内視鏡検査を受けてみてください。きっと、思ったよりも楽に終わるでしょう。

ちなみに、内視鏡検査で苦しかった時は、「若いほど反射が強いので、若い証拠ですよ。」と慰めています。そして、楽に終わった時は、「私の腕がいいからだ。」とは言っていません。





私は本を読む時は何冊も並行して読んでいます



私が初めて小説を読んだのは、高校入学直前でした。新聞は読んでいましたが、それまで、教科書以外の本を読んだことはありませんでした。弘前高校に入学が決まると、指定された本を読んで感想文を書くという課題がありました。その時が初めてだったのです。太宰治の「津軽」でした。ちなみに、本を読まなかったのは西目屋村に本屋がなかったからです。

高校時代に読んだのは、ほとんどが有名な小説です。それまで小説というものを読んだことがありませんでしたので、面白くて仕方がありません。大学になると、安楽死などに興味を持ったことから、小説に加えて、いわゆるノンフィクションを多く読むようになりました。大学を卒業してからは、忙しくて一般書を読んでいる暇もありませんでした。再び本を読み始めたのは、昭和63年に県立中央病院へ赴任してからです。その頃は、血液疾患や悪性腫瘍の化学療法を主な仕事としていましたので、闘病記、尊厳死、ホスピス関係の本を多く読んだのは当然でした。

私は1冊の本を読み終えてから、次の本を読み始めるということをしません。手に入れた本

は、すぐに内容を確認めたくりますので、次から次へと開きます。医院の院長室、自宅の居間、机の上、ベッドの脇の机、どこにでも本を積んでいます。読んでいるページを開いて重ねているのです。多い時は10冊位を並行して読んでいることもあります。本を読むには時間がかかりますから、一生に読む本には数限りがあります。ですから、ちょっと読んでつまらないと判断した本は、読むのを止めます。時間ももったいないからです。

医師と患者の関わり合いについては、教科書的に教わることはありません。私の現在の診療姿勢は、これまで関わってきた患者さん、特に亡くなった患者さんとの関わりから成り立っています。そして、今まで読んできた本の中での疑似体験から自分なりに学んだことが基本になっていると考えています。これからも、できるだけたくさんの本を読み続けるつもりです。

私は一度読んだ本を読み返すことはほとんどありませんので、読み終えた本は待合室の本棚に置いています。どうぞ、自宅に持ち帰ってでも自由にお読み下さい。他に誰かが読んでくれば、本にとっても幸せなことでしょう。



藤田すみ子 (4?歳)

平成7年に開院以来、清掃を担当しています。その日の診療が気持ちよく出来るように、朝7時には出勤して、きれいにしてくれます。

平成9年に増築して、入院病室が2つと薬局が増え、今回は駐車場のスペースが2倍になり、仕事の量がますます増えました。

医学に関する津軽弁(その4)



『ぼのご』

ぼんのくぼ(盆の窪)のことで、本来は項(うなじ)の中央のくぼんだ部分であるが、後頭部から頸部にかけて、少し広い部分を指すことが多い。「ぼのご」の「ぼ」と「の」の間に「ん」がかすかに発音される。この言葉のイントネーションはむずかしく、言葉で書き表すことは不可能だ。

外来患者さんの訴えで多いことのひとつとして頭痛がある。特に肩こりと関連して「ぼのご」を指して頭が痛いと訴える場合が多い。そして、血圧が高くないか心配し、「あだった(脳卒中)」のではないかとますます不安になってくることが多い。確かにくも膜下出血は激しい頭痛に襲われるが、外来で見る頭痛は、筋緊張性頭痛といわれる、頭蓋骨の外側の筋肉の痛みであることが多い。

原因が何であれ頭痛が強くなれば、それだけで血圧は上がる。高血圧性脳症という、血圧が高くなったために頭が痛くなる病気もあるが、むしろ、肩が凝ったり、頭が痛くなった結果として血圧が高くなることが少なくない。「ぼのご」が痛くて血圧が高い時は、どちらが先なのかを見極める必要がある。多くの人たちは「あだる」ことを心配しているので、血圧が高くないことが分かると安心する。どこまでも、血圧、あだり、頭痛は関連している。

医院のホームページもご覧ください。
このニュースレターの内容はホームページと重複している部分が多いです。

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	診療						休診
12:30~2:00	昼休み		昼休み				
2:00~6:00	診療	休診	診療	休診	休診		

時間外と休日は電話(37-7755)でご連絡をお願いします。
入院病棟に必ず看護婦がいます。

所在地

